

# 設楽発掘通信

No.23  
平成28年  
10月号

## 西地・東地遺跡の調査を開始します。地元説明会のご案内です。

十月から大名倉地区の西地・東地遺跡の調査を開始しました。前回は平成二十六年年度の七月から一月にかけて、面積四千二百二十平方メートルを調査しました。その結果、特に縄文時代中期から後期（今から五千年から四千四百年前頃）の遺構・遺物が良好な状況で見つかり、竪穴建物跡五棟、袋状土坑五基、土器埋設遺構二基などが調査されました。

本年度の調査区は前回の調査区間にある町道部分です。面積は三百四十平方メートルと比較的小規模ですが、前回と同様に縄文時代の遺構・遺物が検出される事が予測されます。

調査期間中には地元の方々にも今回の調査成果を紹介する機会をいただきたく、十一月十九日（土）の十一時から、地元説明会を計画しています。当日は前回の調査も振り返りながら、本年度の調査成果を報告する予定です。

川向地区の川向東貝津遺跡の調査が終了し、同じ川向地区の大栗遺跡の調査が開始しました。こちらの調査成果も何らかの方法でお伝えしたいと考えております。今後とも私どもの遺跡調査にご理解とご協力をお願い申し上げます。

（愛知県埋蔵文化財センター 池本正明）

### 西地・東地遺跡地元説明会 会場のご案内

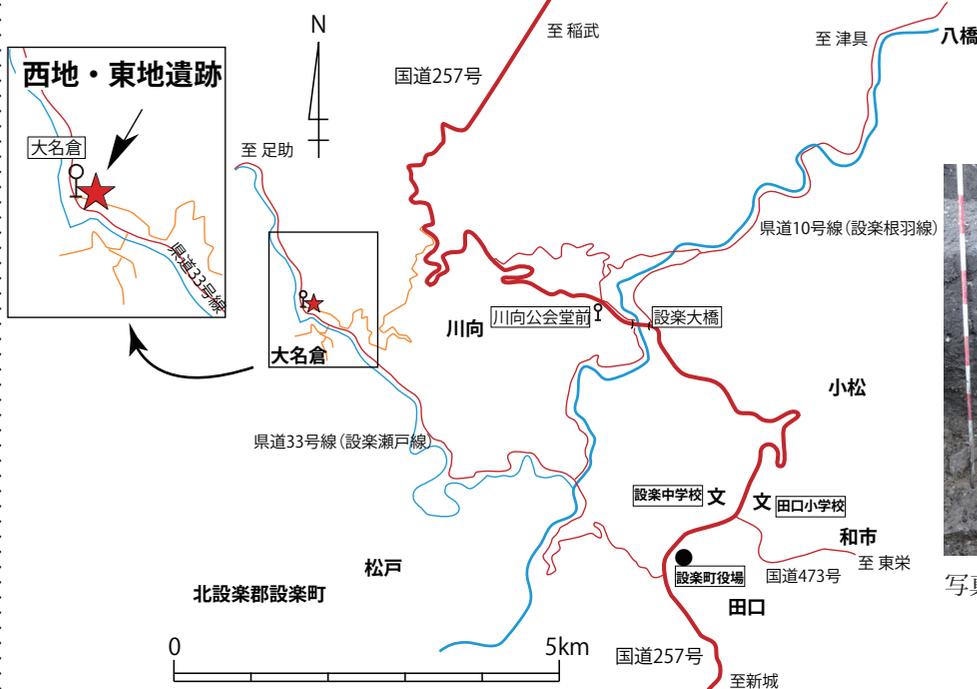


写真1 平成26年度の調査で見つかった埋葬

11月19日（土）午前11時から、発掘現場で開催予定です。

当日お車でご来場の際には、遺跡に近接する駐車場を係員がご案内いたします。

\*開催の詳細・お問い合わせは、愛知県埋蔵文化財センター調査課（電話 0567-67-4163）、川添和暁（080-1571-4989）、あるいはホームページ（<http://www.maibun.com>）をご覧ください。

滝瀬(たきせ)遺跡の南西約五百メートル、境川が大きく蛇行する河岸段丘(かがんだんきゅう)上に位置しています。



図2 マサノ沢遺跡の位置

大きな坑(あな)か、竪穴建物(たてあな)なてもの(の)の一部と思われる。今回は遺構の有無だけ確認し埋め戻しました。



写真2 トレンチ内の明瞭な遺構

土器・石器が多数出土しました。石材の種類は様々ありますが、現時点では安山岩(あんざんがん)系が最も多いです。



写真3 出土遺物1

掘ってみたら岩盤だった、というところもあります。遺物を含む層【包含層】の存在を確認するため、広い範囲を調査します。



写真4 掘削調査をしたトレンチ

### マサノ沢遺跡の

### 範囲確認調査

マサノ沢遺跡は設楽町の小松地区に所在する遺跡です。今年度の五月中旬から六月末まで範囲確認調査を行いました。

調査の結果、驚くほどの量の土器や石器が出土しました。出土したのは、縄文土器が最も多く、石器・石材(石器の材料と考えられる石)も同じくらい出土しています。

また、石棒の破片が出土したことは、大きな特徴のひとつです。石棒は昨年度の調査でも笹平遺跡でのみ確認されており、珍しい遺物と言えます。

今回のマサノ沢遺跡の調査では、縄文時代中期(今から約五千年前)から縄文時代晩期(今から約二千五百年前)までの土器が確認されています。東

日本方面から持ち込まれた土器もあるようです。

範囲確認調査は、その名前の通り、遺跡の「範囲」を確認する調査ですので、先月号でも述べられていたとおり、小さなトレンチごとに「ある」、「ない」を見定めていく調査となります。遺跡があるかもしれない範囲をくまなく調査していくのですが、範囲確認調査を行う面積そのものは、その範囲の多くても一割ほどしかありません。

そのため、今回見つかったものも、当然ながらこの遺跡の全貌を示すものではありません。おそらく今回の調査では見られなかった種類の遺構・遺物がまだ存在するものと思われます。将来、本格的な調査が行われることになれば、きっと多くの遺物が出土するものと思われれます。

(愛知県埋蔵文化財センター 鈴木恵介)

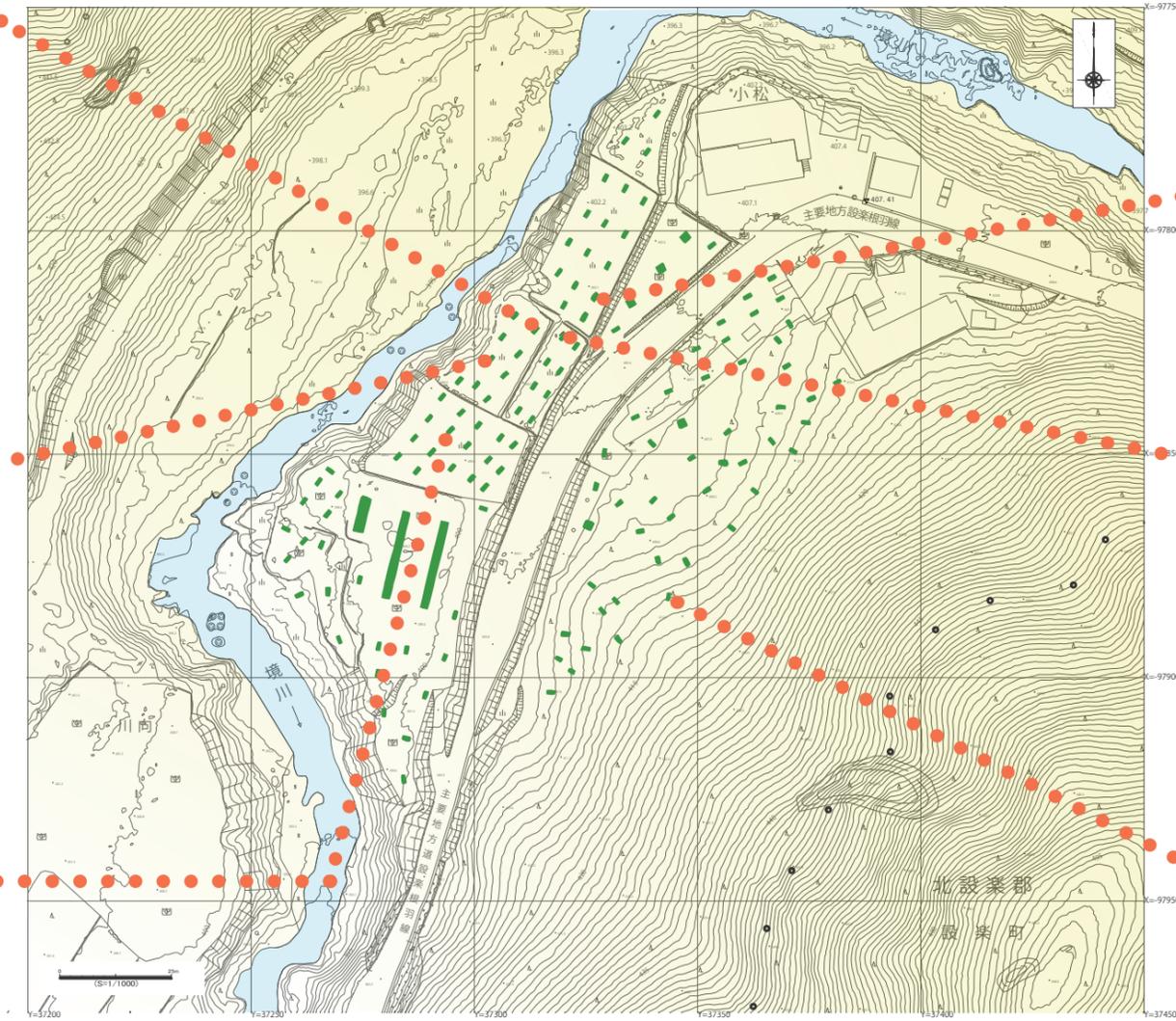


図1 マサノ沢遺跡の範囲確認調査トレンチ位置図【緑色部分がトレンチ(試掘坑)の位置】



写真5 石囲い炉の跡

すでに一部が壊れているようですが、炉の範囲がはっきりわかります。このまま保護して埋め戻しました。



写真6 出土遺物2

マサノ沢 TT035 2-35

上の写真の、石囲い炉の周辺から多くの土器が出土しました。もしかすると、炉の周辺にも遺構が広がるかもしれません。



写真7 出土遺物3

石棒の破片【矢印】。石棒は昨年度の笹平遺跡でも多くの出土がありました。材質は緑泥片岩(りよくでいへんがん)などの石材と思われれます。



写真8 土器の出土の様子

トレンチの壁に大きな縄文土器が見えます。このような場合は、どの層に土器が含まれるのか、ということも重要な情報になります。

## 滝瀬遺跡の発掘調査

現在滝瀬遺跡では、A区の一部とB a区、B d区の調査を行っています。(調査区割の詳細は設楽発掘通信第二号参照)九月初旬にはB b区の調査が終わり、調査のおよそ三分の二が終わったことになりました。B b区では目立った遺構は見つかりませんでした。調査区南側を流れる境川に向かって落ち込む谷が観察できました。谷の堆積からは少量の石器などが出土しました。谷の落ち込みは、より古い段階にはさらに山側にあつたことも分かり、境川の変遷の様子が見て取れました。また、谷の上面には、炭化物が集中する場所がありました。いつのものかはわかりませんが、昔の人の生活の痕跡かもしれません。その他にも、谷の北側では遺物、特に石器の剥片が集中して出土しました。周囲には柱穴や建物跡などは見つかりません。詳細な性格は不明ですが、石器製作の場などの可能性があります。これらの北側は、これから調査するB d区なので、今後もしかしたら関連する遺構が見つかるかもしれません。B a区、B d区の調査はまだ始まったばかりですが、すでに昨年度の調査で見られたような集石遺構の可能性のある土坑が数基見つかりました。今後の調査にご期待ください。

(安西工業株式会社 岩瀬大輔)

## その他の発掘調査

その他の本調査ですが、川向東貝津遺跡は九月中旬で調査を完了しました。遺物整理を行ったところ、石器・剥片が二千四百点、土器片が三十二点出土しました。引き続き、川向地区の大栗遺跡の機械掘削に着手しました。調査工程の関係で部分的に表土掘削を終えたところで一時調査を中断しています。十月後半から再開の予定です。

大名倉地区の西地・東地遺跡の調査を十月から開始しています。表土掘削を終えて、遺構検出作業を行っています。十一月に地元説明会が行

えるように調査を進めているところです。

範囲確認調査のうち、川向地区の石原遺跡、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡、大名倉地区の胡桃窪遺跡は十月中の完了を目指して調査を進めています。今年度調査の対象となるのは後は八橋地区の滝瀬遺跡、根道外遺跡の二遺跡を残すのみとなりました。

九月は雨が多く、調査の進みに影響が出ていますが、日中の気温も涼しくなってきたので職員・作業員一同発掘調査に精を出しています。

(安西工業株式会社 入江剛弘)



写真9 滝瀬遺跡Bb区全景(左が北)

# 設楽発掘通信

No.23 平成28年10月号

編集・発行 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方8022の24  
電話 (0567)67-4161【管理課】 4163【調査課】  
ホームページ <https://www.maibun.com>  
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>  
Twitter [https://twitter.com/aichi\\_maibun](https://twitter.com/aichi_maibun)



印刷・協力

安西工業株式会社